

バードリサーチ 水鳥通信



サルハマシギ Photo by 澤 祐介

2016年 10月号

季節前線シギチドリ 低気圧の壁？

守屋年史(バードリサーチ)



季節前線シギチドリへのご協力ありがとうございました。今年の春期の調査で、2012年春期から5年分のデータを集めることができました。5年間で総勢114名の方にご協力いただきました。今回は、この春期のトピックをお知らせします。

寄せられたデータは確実な初認記録から少し初認記録か不確かなデータまで様々です。しかし、すべてのデータは、対象種がその時その場所に確実にいたという記録です。そこで、今回はすべてのデータを利用し、さらに多くのデータを参照とするため、全国シギ・チドリ類モニタリング調査の春期の結果も参照しました。集めたデータは、その地域で最も早い記録を抽出し初認記録として分析しました。

はばまれたチュウシャクシギ



写真. チュウシャクシギ.

特徴的な結果が出たのは、チュウシャクシギでした。2012年から2015年までは4月後半には北海道南部で確認されていましたが、今年は4月中旬に北海道では観察されず、東北まで一旦留まりました(図)。今年の4月下旬の天候は、九州の南部に前線が停滞して本州以南は雨が多いものの、26日頃は気温が上昇し函館では桜が満開しました。しかし、30日には札幌上空に平年より9.1℃低い寒気が流入してきて、北海道で曇りや雨、オホーツク海側などで

は雪が降るような荒れた状況(気象庁HP 日々の天気図)となっていました。東北に留まった日が4/29なので、今まきに向かおうとする方向の低気圧に移動を妨げられたと考えられます。このような状況が、他の対象種への影響もあつたのか見てみると、アオアシシギが4月下旬に例年より遅れが見られました。

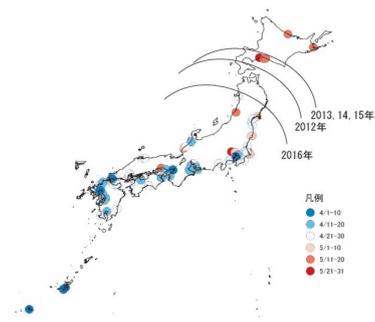


図. チュウシャクシギが4月までに到達した位置.

2種がちょうど北海道に向かう辺りで、低気圧に妨げられて渡りの一時中断をしたとして、Stop and Goの判断をなにを基準に行っているのでしょうか？気温や気圧、風速、雨量など気象にかかわる条件は多々あります。渡り鳥が気温の北上に伴って移動することが北米のカナダガンなどで知られており、シギ・チドリ類の渡りも温度との関係がありそうです。しかし、暴風雨に巻き込まれてからでは遅く、シギ・チドリ類は中継地の干潟や湿地が均等にあるわけではなく一度に大きく移動するため、事前に察知する必要があります。そのため鳥類には「傍鼓膜器官」という気圧を検知する器官を持っていて、渡り鳥は気圧変化で危険を判断しているのではないかと考えられています。シギ・チドリ類はこの器官がより発達しているかもしれません。